４－12　伊豆半島におけるラドン観測（XIV）
Radon Observation in the Izu Peninsula（XIV）

東京大学理学部
Faculty of Science, The University of Tokyo

前報[1)]にひきつづき，伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果（1995 年 11 月～1996 年 11 月）を報告する。

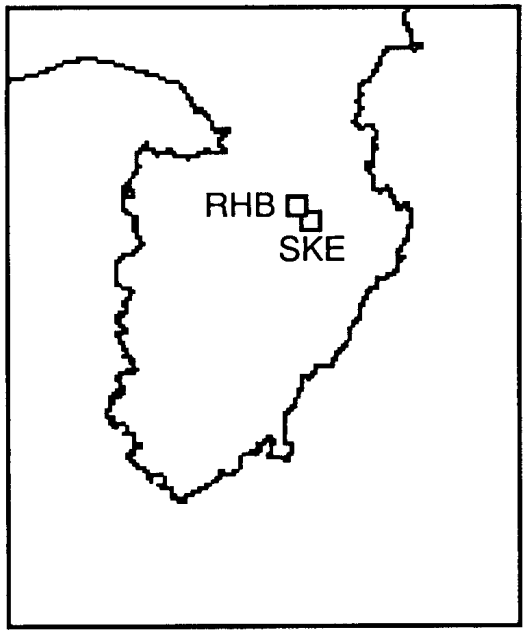
観測点は，第１図に示す中伊豆第１（SKE)，中伊豆第２（RHB）の２地点である。第２図は各観測点における，１時間毎のラドン濃度（積算値）の 24 点移動平均の変動で，縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。

SKE のラドン濃度は観測期間中ほぼ一定である。

RHB では，例年夏期に比べて冬期のラドン濃度は低く，変動も大きい。この観測点では伊豆半島東方沖の群発地震活動に伴ってラドン濃度の変化が観測される事が多いが, 1996 年 10 月の活動については顕著な異常は観測されなかった。

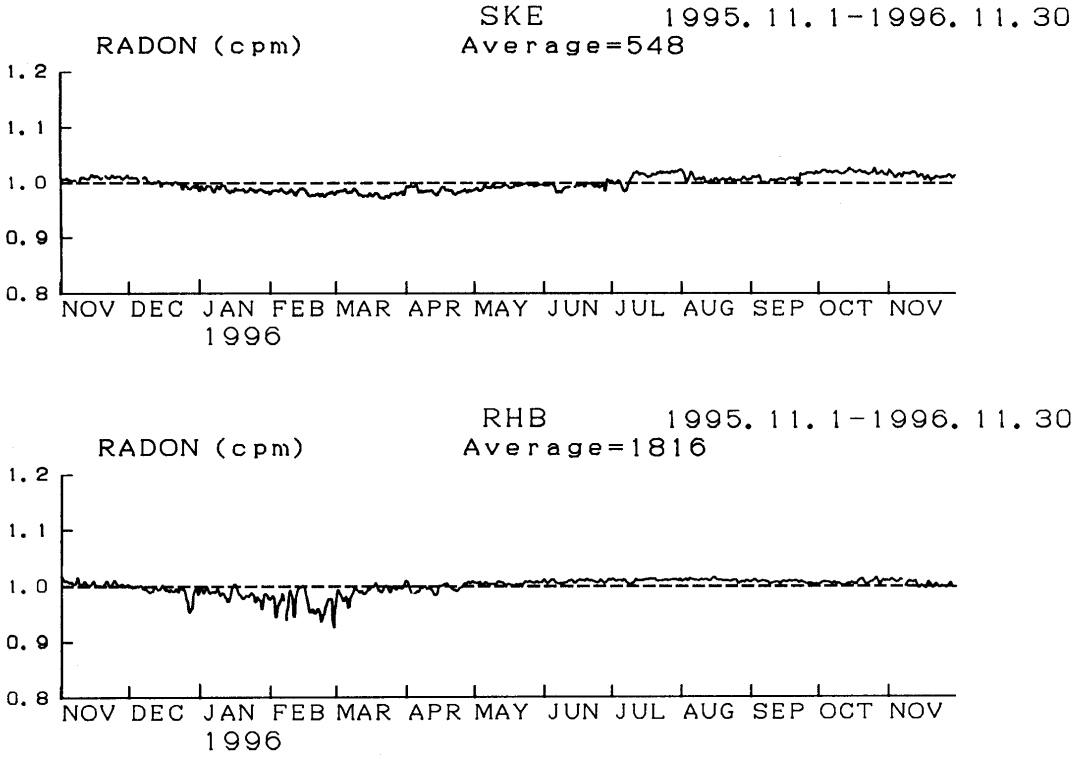
参　考　文　献

１）　東京大学理学部：伊豆半島におけるラドン観測（XIII)，連絡会報，**55** (1996)，357-358.



第１図　伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1　Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula.



第２図　SKE（中伊豆第１），RHB（中伊豆第２）における地下水中のラドン濃度の変化（1995 年 11 月～1996 年 11 月）

Fig. 2　Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE（Nakaizu-１）and RHB（Nakaizu-２）.（November 1995 - November 1996). The data are 24-hour moving average values.